

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 23

事業名

食育と地産地消の推進「元気高粱を目指した食育推進事業」

事業の概要

食に関する情報が氾濫し、栄養の偏りや不規則な食生活が問題となっており、肥満者や生活習慣病が増加している。

特に、若い頃に良い食習慣を身につけることは重要であり、次代を担う若者世代に食を中心とした健康づくりをすすめるとともに、高粱地域の食育及び地産地消に対する意識の向上を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
高粱市栄養改善協議会連合会	事業の企画立案、事業実施
高粱地域「食育と地産地消」推進連絡協議会構成団体	事業協力
高粱市新農業経営者クラブ連絡協議会 高粱直ちょくねっと 高粱地方農村生活交流グループ協議会	事業実施
県民局高粱支局（高粱保健所）	事業の企画立案、事業実施

実施状況

1 高粱っ子食育普及啓発事業 ～三世代交流と地産地消～

「食生活の自立をめざして」のテーマのもと、親子料理教室と食育と地産地消を考える会を開催した。

親子料理教室は、「子ども達に伝える我が家の料理」として、地元で生産された野菜を活用して、豚汁など手軽で野菜がたっぷり入った、将来一人暮らしをしても栄養バランスが摂りやすいメニュー中心とした。また、世代交流と話し合いを大切に取り組んだ。



親子料理教室

2 学園都市高粱の食育推進事業

(1) 高粱版食育指針の作成、普及啓発

高粱の若者に対する食生活等実態調査をもとに高粱版の食育指針を作成し、普及啓発活動を実施した。



高粱版食育指針

(2) 高校の文化祭、大学の学園祭を活用した食育の普及啓発活動

- ①日時：平成20年11月 9日(日)
平成20年11月16日(日)
- ②場所：吉備国際大学学園祭
高梁城南高等学校高梁校地文化祭
- ③内容：(ア) 栄養委員コーナーの設置
(イ) コンビニと手づくり弁当の比較展示
(ウ) インスタント食品の塩分展示
(エ) 食育パネル展示、体脂肪測定等



野菜たっぷり弁当



コンビニ弁当の展示



料理の塩分展示

- (3) スーパー・コンビニ等を活用した情報発信
食育カードを作成し、スーパー・コンビニ
飲食店等に配布し、情報発信をした。



食育カード

3 「食育と地産地消」推進リーダー研修会

- (1) 日 時：平成20年12月8日(月)
- (2) 場 所：高梁総合文化会館 レクチャールーム
- (3) 参加者：87人
- (4) 講 演：地域で取り組む食育推進活動
ノートルダム清心女子大学
人間生活学部食品栄養学科
准教授 逸見眞理子氏



講演の様子

(5) 実践発表

- ①地産地消の取り組みについて
高梁市立有漢学校給食センター
栄養士 瀬尾好美氏
- ②農業体験と地産地消の活動
わいわいクラブ 藤田 泉氏
- ③私たちの栄養委員活動
高梁市備中地域栄養改善協議会
会長 平井みどり氏



実践発表 コメンテーター

④コメンテーター

岡山県学校給食会高梁支部 支部長 中島 生晴氏

山陽新聞社編集局経済部 記者 大河原三恵氏

ノートルダム清心女子大学人間生活学部食品栄養学科准教授 逸見真理子氏

4 高梁地域地産地消フェアの開催

(1) 日 時：平成20年10月18日(土)

(2) 場 所：ポルカ天満屋ハピータウン

(3) 参加者：約400名

(4) 内 容：①高梁地域で生産された有機農産物や特産物
農産加工品、地元食材を使った食べ物の販売
②ももっちとおかやま米大使による米消費拡大
PR等

(5) 主な販売物：有機栽培米、野菜、ピオーネ、トマト
高梁紅茶、山菜おこわ、つきたてもち
鴨汁、けんちんそば、蒸しまんじゅう等



フェアの開催

(6) 出展団体：①有機で元気たかはし村(宇治町ふるさと農法研究会・上組営農実行組合・かようあいがも会)

②高梁地方農村生活交流グループ協議会

(百姓のわざ伝承グループ、中野なかよし会、北方農村生活交流グループ)

③JAびほく

5 消費者代表者との交流

<第1回>

(1) 日 時：平成20年7月24日(木)

(2) 場 所：高梁市成羽町、川上町、宇治町

(3) 内 容：直売所の見学・買物、こんにゃく作り体験
合鴨農法の見学、ピオーネ収穫体験、生産
者と消費者との意見交換

(4) 参加者：26人(岡山市、倉敷市の一般消費者)



直売所での見学・買物

<第2回>

(1) 日 時：平成20年12月9日(火)

(2) 場 所：高梁市落合町、津川町、有漢町

(3) 内 容：直売所の見学・買物、ごぼう堀体験
地産地消料理(地粉うどん等)の試食
生産者と消費者との意見交換

(4) 参加者：17人(おかやまコープ備北地域組合員)



地産地消料理の試食

6 高梁ピオーネ祭の開催

(1) 日 時：平成20年9月27日(土)

(2) 場 所：直売所(JAグリーンセンター特産品直売所、ポルカ食品館ふるさと市場、ゆめタウン高梁ゆめ市場、かんばら茶屋、かぐら街道布寄直売所、神楽の里フレンドショップ、全国川上水と緑のふるさとプラザ、高梁市川上フラワーフルーツパーク仁賀直売所、弥高山直売所、うかん常山公園風ぐるま市場)

- (3) 内 容：ピオーネの試食、ピオーネの房売り
箱売り（2kg・5kg）
ピオーネ加工品（ジャム・ゼリー）の試食
アンケート（ゆめ市場）
- (4) 主 催：高梁直ちよくねっと
- (5) 参加者：約2400人



高梁ピオーネ祭でのピオーネ販売

7 食の知恵と技伝承講座の開催

<第1回>

- (1) 日時：平成20年7月22日（火）
- (2) 場所：高梁市有漢町
- (3) 内容：ピオーネの袋かけ
- (4) 参加者：おかやまコープ備北地域組合員 8人



ピオーネの袋かけ

<第2回>

- (1) 日時：平成20年9月24日（水）
- (2) 場所：高梁市有漢町
- (3) 内容：ピオーネの収穫
- (4) 参加者：おかやまコープ備北地域組合員 8人



ピオーネの収穫

<第3回>

- (1) 日時：平成20年10月18日（土）
- (2) 場所：ポルカ天満屋ハピータウン
- (3) 内容：高梁地域地産地消フェア
生活交流グループによる特産加工品の販売
手打ちそば、手作りまんじゅうの実演販売
- (4) 参加者：約400人



特産加工品の販売

8 高梁地域の農産物活用交流会

高梁地方新農業経営者クラブ連絡協議会では、高梁市備中町において、岡山学院大学生15名と「高梁地域の農産物活用交流会」を開催した。

この活動は、搾乳やバター作り等の体験を通じて、管理栄養士等を目指す学生に生産の現場を知ってもらうことと、調理の専門家のたまごによる、畜産物を活用した献立づくりによって、地域資源の新たな活用方法を探ることを目的に行った。

学生達は、搾乳体験とバター作り体験を行った後、牛舎内で肉用牛と乳牛の違いについて説明を受けた。

その後、調理実習室に移動して、事前に学生自らが考えた5品を調理した。最後に学生と青年農業者全員が集まって、料理を食べながら情報交換と交流会を行った。



情報交換



牛舎内見学

(1) 開催日：平成20年10月4日(土)

(2) 開催場所：高梁市備中町

成果・効果

- 1 高梁っ子食育普及啓発事業及び学園都市高梁の食育推進事業では、参加協力が得られた若い世代には、健康づくりに関心を持ってもらい、「朝食を毎日食べる」、「野菜を十分摂取する」、「栄養バランスのとれた食事をしよう」という意識啓発ができた。
- 2 「食育と地産地消」推進リーダー研修会では、食育に取り組む保健、教育、農業等関係団体の連携ネットワークが構築された。
- 3 高梁地域地産地消フェアの開催では、生産者自ら直売・PRすることにより、生産者の顔が見えて安心感のある地元農産物・加工品への地元消費者の認識が深まった。
- 4 消費者代表者との交流では、直売所の関係者から、生産者の苦労や農産物への思いなどを説明しながら、見学、買物をしてもらうことで、普段の買物では気づかなかったことを気づいてもらえ、買う時の参考にしてもらえた。また、生産現場の体験や生産者との交流によって、消費者に農産物への愛着や生産者の思いを知ってもらうことができた。
- 5 高梁ピオーネ祭の開催では、10カ所の直売所が共通のチラシを作成・配布し、ラジオやテレビで宣伝広告することにより、岡山、倉敷などから集客が図られ、高梁のピオーネがPRできた。また、新しいピオーネの加工品開発の気運が高まった。
- 6 食の知恵と技伝承講座の開催では、農業生産現場の体験を通して、食の安全・安心への理解が深まった。また、消費者に手作り加工品、料理の良さを伝えることができた。
- 7 高梁地域の農産物活用交流会においては、学生から、「牛を間近に見て、圧倒された。」「肉になる牛を見て、日頃の食を支えている命を感じ、何ともいえない気持ちになった。」等の感想が聞かれた。また、青年農業者からも「いつもと違って牛肉のおいしい食べ方が色々あることを知った。」等、感想や質問が活発に出された。生産者と消費者が、それぞれの得意分野を生かした交流を行うことで、互いに視野を広げ考えを深めることができた。